

# ストキャスティクス

## 1. ストキャスティクスの性質

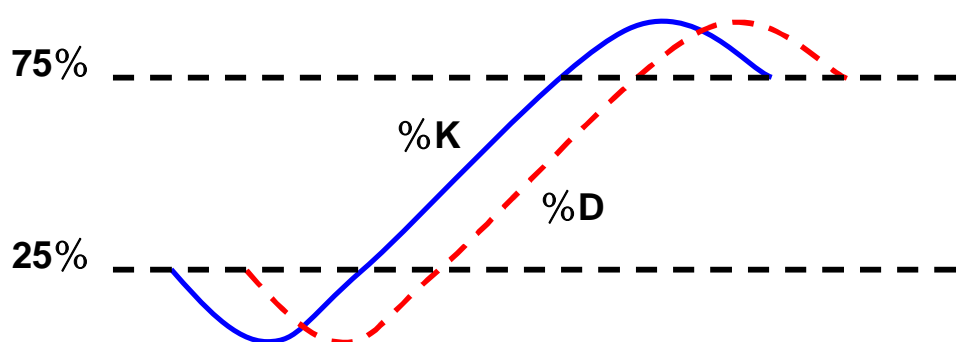
オシレーター系チャート（「買われ過ぎ」、「売られ過ぎ」の状況を指数で表示するもの）で、ここ何日間の価格の位置が相対的に高いレベルにあるのか、低いレベルにあるのか、それを0~100%の数値で表します。

ストキャスティクスは過去一定期間の高値・安値を利用することで、現状の相場がどのような位置にあるかを相対的に示すものです。

（ジョージ・レーン氏により考案）

RSIと異なるのは2本のライン（**先行指数%K**・**遅行指数%D**）の関係から売買のポイントを見つけ出す点で、見方としてはMACDと似ています。

先行指数（%K、より早く相場の動きに反応する）をさらに滑らかにした遅行指数（%D、緩やかに相場に反応する）とを組み合わせることで相場の反転時期を探り、特に先行指数と遅行指数が70~75%以上でデッドクロスしたり、25~30%以下でゴールデンクロスした場合には、相場の反転時期を示すことが多いと言われています。



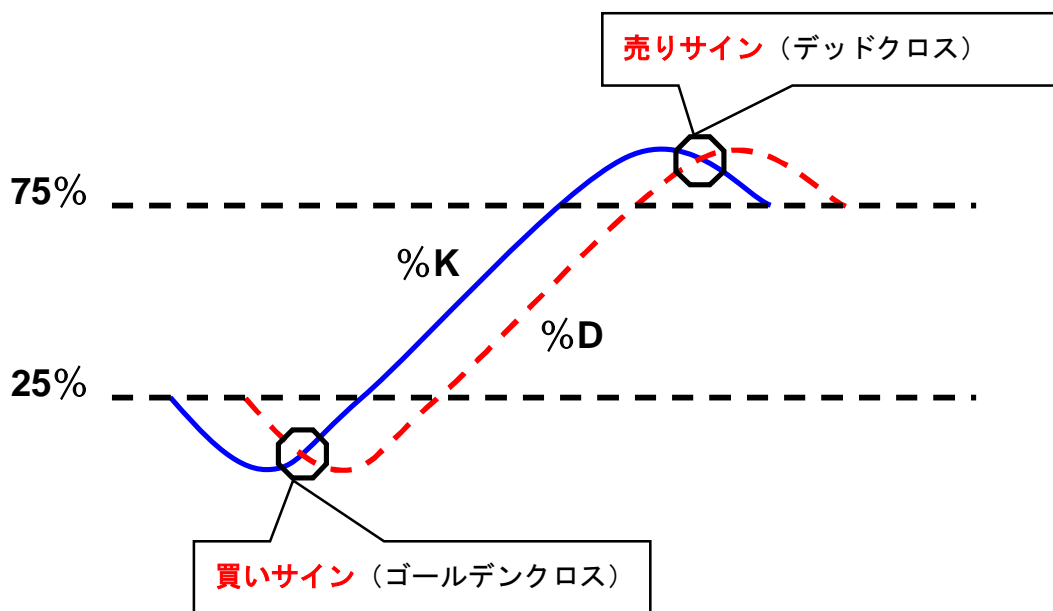
## 2. 買いと売りのタイミング

### 買いサイン

先行する%Kが遅行する%Dを下から上に抜いた（ゴールデンクロス）時。

### 売りサイン

先行する%Kが遅行する%Dを上から下に抜いた（デッドクロス）時。



### 3. 数式・その他注意点

先行指数%K

$$\%K = \frac{(\text{当日終値} - \text{過去 } n \text{ 日間の最安値})}{(\text{過去 } n \text{ 日間の最高値} - \text{過去 } n \text{ 日間の最安値})} \times 100$$

遅行指数%D

$$\%D = \frac{(\text{当日終値} - \text{過去 } n \text{ 日間の最安値}) \text{ の } m \text{ 日間の合計}}{(\text{過去 } n \text{ 日間の最高値} - \text{過去 } n \text{ 日間の最安値}) \text{ の } m \text{ 日間の合計}} \times 100$$

一般的に、レンジ相場において効果を発揮すると言われていて、**ポジションメイク（新規）には有効で、クローズ（仕切り）には不向き**とも言われています。

また、強いトレンド時に（**逆行現象：ダイバージェンシー**）が起きる場合があって、ストキャスティクスが買われ過ぎ（売られ過ぎ）を示していても、価格が上昇（下落）するケースがあるため、このダマシには注意を要します。